

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

よい習慣が危機対応能力につながる 佐々木 常夫 (東レ経済研究所特別顧問)

1. 組織が危機を迎えた後に「危機だ、危機だ」と騒いでも始まらない。日頃からやるべきことをコツコツとやっておくのがリスク回避の定石であることを、今一度確認したほうがよい。事が起きてから動き始めると何もかも後手後手になるのは、今日の政府や東京電力の対応を見てもわかるだろう。
2. 「赤字だ」「外部環境の急変だ」と、危機を声高に叫ぶ経営者も社員も少なくはない。だが、それは本末転倒で、赤字になる前から、または環境が急変する前から備えておけば危機はやってこないのだ。「なんだ、当たり前じゃないか」と言うが、この当たり前をきちんとできる人がいかに少ないか。
3. 「これだけ備えているから大丈夫」「それほどの事態はめったにこない」と思ったら、それが油断である。日頃からあらゆる状況に備えておくこと。それが習慣になっていれば、危機は訪れないのだ。だからこそ、「よい習慣は才能を超える」。よい習慣は、危機対応能力にもつながる。どんな状況でも、つねにやっている人が勝つ。やらないと普段から差がついているもの。習慣化された人こそ、どんな時でも対応できる能力を備えているのだ。

(参考:「週刊東洋経済」2011年4月9日号)

ワンポイント経営アドバイス

しっかりとした気構えを持つ

東日本大震災は、国内景気に深刻な影響を及ぼした。まさに未曾有の苦境だ。これを跳ね返す次の7つの心構えを忘れてはならない。

1. 成長の機会はずらある。縮小均衡に陥るな。
2. 外部環境に解はない。自分を磨くことに専念しろ。
3. 心地良さをなしで、これからの消費は喚起できない。
4. まず立ち上がろう。誰かが支援してくれる。
5. 「べき言葉」は通用しない。柔軟な発想で取り組み。
6. 困難から逃げることなく、挑戦する覚悟を持って。
7. ネットワークを広げれば、新しい可能性が生まれる。

(参考:「日経トップリーダー」:2011年6月号)

経営者のための危機管理

こんな会社は危ない

1. 危険な企業を察知するには、大別して二つの方法があります。一つは、決算書などのデータで企業を見る「定量分析」。もう一つは、数値化できない質を評価する「定性分析」です。
2. 危険な兆候チェックリスト
 - (1) 社長…①本業以外(公職、宗教、相場商品)に没頭している。②豪邸を新築したり、会社の私物化が強まった。③他人や専門化の意見・忠告を聞かなくなった。
 - (2) 幹部…①外出が増えたり、所在不明のことが増えた。②役員間の対立、内紛、分裂、責任転嫁が起こっている。④有能な人物が異動、退社した。
 - (3) 外観・評判…①正体不明の人間が頻繁に出入りしている。②業界、同業者、近隣による悪評が立っている。③掃除の不行き届き、汚れが目立つ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2011年3月26日号)

古典に学ぶ

短所によって自滅した項羽と張飛

「羽は剛にして自ら矜り、飛は暴にして恩なし。短を以って、敗を取るは理数の常なり」

(訳)「三国志」を書いた歴史家が、この二人(項羽と張飛)を評したコメントです。「項羽は剛勇にすぎてうぬぼれが強く、張飛は粗暴で思いやりに欠けていた。こうした欠点によって破滅を招いたのであるが、それは当然のなりゆきであった」というのです。

(参考:守屋 洋「リーダーのための中国古典」:日経ビジネス人文庫)